

# こもれ陽

南足柄市立足柄台中学校 3年1組 学級通信 担任 石川 幸恵

2014, 4, 24 (木) NO, 4

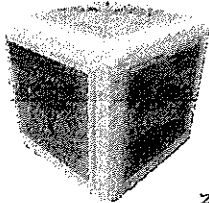
3年生になって約3週間がたちました。3年生となった自覚が授業中にも感じられます。部活動には1年生も正式入部をし、最上級生としてさまざまな場面で下級生の手本となる場面が増えていきます。

みんなが楽しみにしている修学旅行も近づいてきました。決めることも多いですが、班やクラスで協力して準備を進めていきたいと思えます。

## 修学旅行に向けて

5月14(水)～16日(金)の修学旅行の3日目では、立命館大学国際平和ミュージアムに行きます。4月21日(月)の「道徳」と4月22日(火)の「総合的な学習」の時間では、その事前学習として、国際平和ミュージアムから借用した教材を使い、「平和」について考えました。その取り組みを紹介したいと思います。

### ☆「さいころくんを見てみよう」

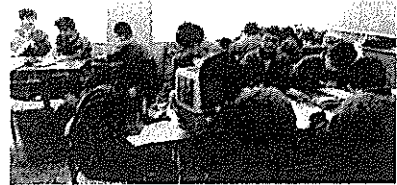


#### ←「さいころくん」

日本で使われている「サッカーボール」はどこで作られているか？一番多いのは「パキスタン」だそうです。日本で買うと約4000円。しかし、現地では40円くらい…。その差はどこから来るのか？→それは低賃金、そして児童労働が原因。

そんな話題を導入にし、そこから、目を世界に向けてみました。現在の私たちの周りには平和な暮らしを阻むさまざまな現実があります。そこに目を向けながら、その構造を知ることで、平和な地球社会を築くため、子どもたちにもできることを見つけるヒントをつかむことがこの「さいころくん」を使う目的です。

現代社会の諸問題を示唆するデータを紹介している「さいころくん」を実際に触れながら、班を中心に考えてみました。いくつか出てきた意見を紹介します。



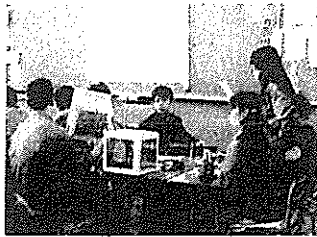
#### (1) 興味深かった面

##### 「7人にひとり 2億1800万人もの子供が働いている」

…私たちが学校に行き、授業を受け、部活動をしたり、家でご飯を食べたりお風呂に入っている。そういう当たり前のような生活を当たり前に行えない人がなぜこんなにいるのだろう。

##### 「8人にひとり 69億人のうち約9億人は安全な水を使えない」

…日本はほぼ100%安全な水が使えるため、汚い水を飲むということはありません。



### 「5歳になるまえに命を失う子供たち」

…日本は10人未満なのに、200人ものが死んでいる国もある。

### 「世界が援助している量。日本が捨てる食料」

…世界が援助している量よりも、日本が捨てる食料の方が4倍も多い。びっくりした。



#### この時間を通して考えたことや感じたこと

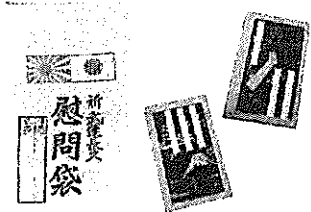
○貧しい人々のところへ助けに行くのは難しいかもしれないけど、募金活動などで寄付することはできると思う。1日でも早く、このような貧困もしくは戦争がなくなしてほしいと思う。日本はとても恵まれた国だと思った。

○わたしたちの生活環境はとても恵まれていると改めてわかりました。安全な水が飲めなかったり、こども兵士として学校へ行かれなかったり。そう考えると私たちが面倒くさいと思っている普通の授業もとてもぜいたくなことだと思います。

○日本が恵まれていることに幸せを感じ、感謝しなければならなかったと思います。学校でやっているエコキャップ活動など、自分でも誰かのために役に立つことはできると思うから、進んでその活動に取り組みたいと思います。

#### ☆戦時中の子どもたち 慰問袋ってなあに？

戦時中、銃後の人々が兵士へ送った「慰問袋」(とその中身)を通して、戦争の実態や当時の社会の様子を知り、平和の大切さについて考えました。慰問袋の中には、キャラメル、皇軍慰問将棋、皇軍慰問裁縫セット、傷薬、慰問文、などが入っており、慰問文の書き方などの歴史資料の複製や慰問文の解説などを実際に目にするによって、当時の生活を想像し、感想を書いてもらいました。いくつか紹介したいと思います。



#### この時間を通して感じたことや感じたこと

○今の日本はすごく平和だと思います。義務教育で勉強できるし、すごいなあと思いました。

○子供たちが書いた慰問文には、「僕も早く兵隊になりたい」と書いてあって驚きました。兵隊になるということは戦争に行くことで、自分の命をかけることなのでとても怖いことだと思います。

○慰問袋があったおかげで、兵隊さんたちの気持ちは少し暖かくなったのかな、と思いました。私は、戦争と向き合わせた教育を恐ろしく感じたし、二度とこんな教育はしてはいけないと思います。

○昔の子どもたちは戦争のせいで、私たちがしてるような授業ができず、戦争のために使うものを作ったりしていたことが分かった。私は勉強が嫌だなあと思っていたけど、昔の子どもたちは授業がしたくてたまらなかったのかなあと思いました。改めて、私は今のこの暮らしを大切に生きていきたいと感じました。

今、私たちが平和で不自由なく生活できているのは、過去にたくさんの犠牲になった人たちの上に成り立っているんですね。そんな中で自分ができることを一つずつ積み重ねていきたいですね。

#### ご協力をお願いします！

厚生委員会：25日までベルマークを集めています。

生徒会本部：エコキャップを集めています。いつ持ってきて大丈夫です。

# 全力疾走

3年4組学級通信

発行者 内田 一輝

2014/04/25 第7号

## ☆3-4の生活がスタートしてから、3週間がたちました!!!

クラスがスタートしてから3週間。3-4のメンバーはとても良く頑張っていると思います。チャイム前着席の意識は高く、給食は必ず時間内。修学旅行に向けた決め事も順調に決まっています。休み時間には、様々な種類の問題集に取り組んでいる姿も見られます。みなさんの良い部分をたくさん見せてもらいました。

ただこれから勉強はどんどん難しくなります。疲労も溜まってきます。その中できっちりとした生活を送って行くことはかなり大変だと思います。4月の新鮮な気持ちが薄れ始め、「だるいなあ」と感じ始めている人はここが正念場です。クラスの当たり前の意識を高めて、クラス全員で規則正しい生活を送って行きましょう。

## ☆道徳 4/23「慰問袋 ～戦時中の子どもたち～」



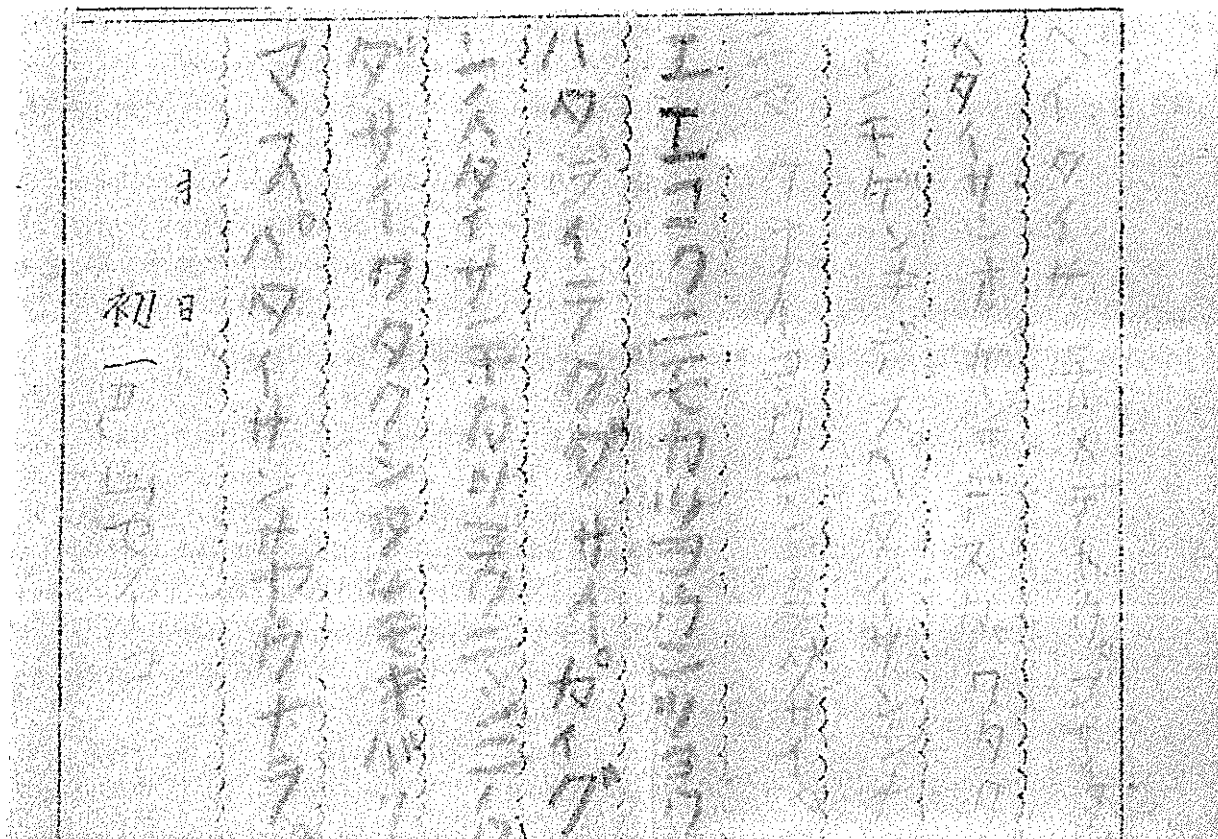
前回紹介した「さいころくん」の授業の翌日に、「慰問袋」を用いて戦時中の日本の様子について考えました。慰問袋とその中身の実物、当時の子どもたちが兵隊に送った手紙などを読むことで、当時の日本の教育の様子や平和について考えることができました。

### <慰問袋～いもんぶくろ～>

出兵した兵士を元気づけるために、手紙や菓、お守りや裁縫セット、お菓子などを入れて戦地に送られた袋。戦時中の学校では、慰問袋に入れる手紙を書く授業が行われていた。袋の「武運長久」とは、武運が永遠に長く続くようにという意味。

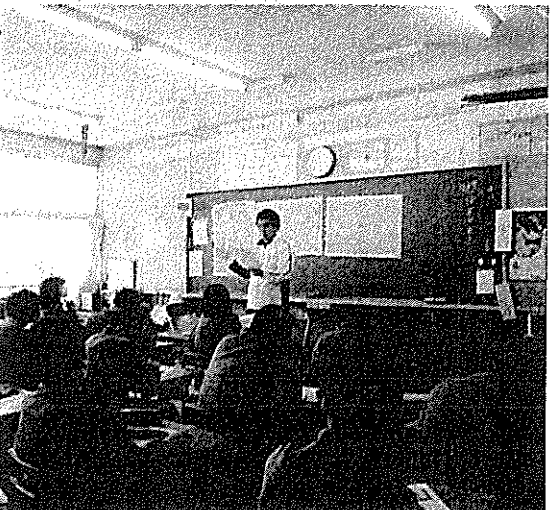
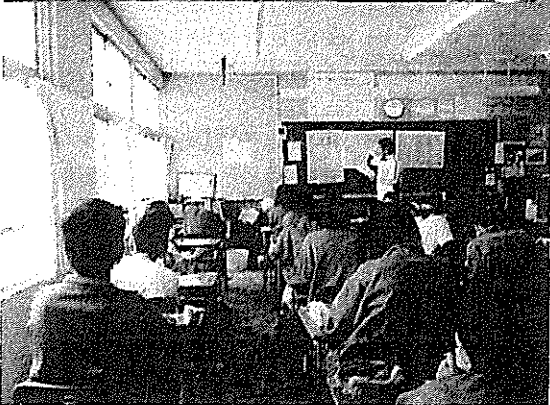
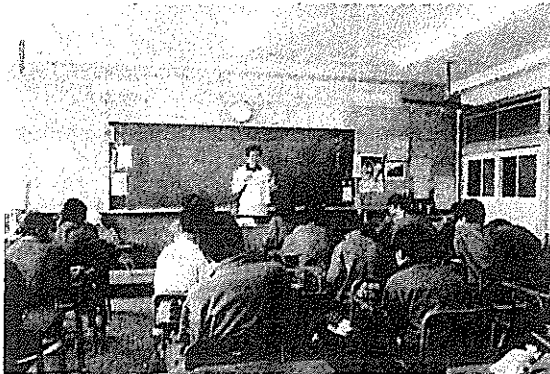
### <実際にみた慰問袋の中身>

手紙(兵隊を勇気づけるような手紙)、キャラメル、裁縫セット、日本の風景を描いたポストカード、将棋セット、占いカード



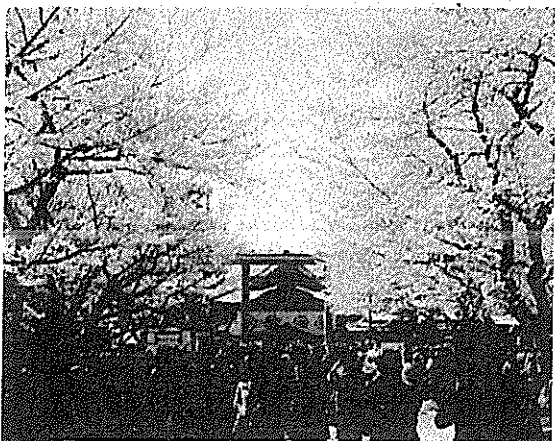
↑ 慰問袋に実際に入れられた手紙。(立命館大学平和ミュージアムより借用)

この時間を通して考えたこと。感じたことを書いてみましょう。



- 中には戦争をしたくない人もいたろうに教育で変えさせられて、かわいそうだと思った。自分は今こう考えられるけれど、教育されていたら当時の人のようになっていたと思う。
- 自分たちの時代の平和は、昔戦ってくれたひとのおかげで成り立っているんだなと感じた。ただ戦争への考え方が固執してしまったから、戦争をやめることが出来なかったのだと思う。いろいろな人に感謝していききたい。
- 戦争で亡くなった人が靖国神社の神様になると言って、みんな戦争に行かされ、名前の後に「命」と書かれてのっていると感じたとき、怖いけれど実物を見てみたいと思った。
- 戦争が大変だってことは十分理解していたつもりだったけれど、それをはるかに超えた大変さだったと思う。そして戦時中の学校の教育の仕方が今考えると恐ろしい教育だと思った。そういうふうに教えたがために死んでいった人もいるかもしれない。そう考えたら、なんて残酷なものなのだろうと、悲しくなった。
- 慰問袋というものを私は知らなかったけれど、昔の兵士達にはすごく助かっていた物なのだとわかりました。手紙なんかは心の支えになったのではないかと思います。でも間違った教育をされた子どもたちはかわいそうだと思う。
- 次の世代にも伝えていきたい。
- 学校から送る手紙に、見本みたいなやつがあって自分達の思っているようなことがかけないからかわいそうだと思った。
- 小さいころから教えこまれたことは大人になっても残るもので、そえを不思議に思うことはないでしょう。そんな子どもたちに戦争を肯定させるように仕向けるのはとても卑怯な手だと思いました

☆いろいろな立場の意見を聞いて、しっかりと自分の意見を持てるようにしよう。



靖国神社の桜。名所として多くの人が毎年訪れます。

感想を読むと、日本が教育によって国民を戦争に向かわせていたことを「怖い」と多く書いてありました。

その一方でこんなことを書いてくれた人がいました。

「自分の大切な国のために、命をかけて戦争に行く兵隊さんたちはとてもカッコいいと思いました。」

当時は「国を守る＝家族を守る」と教え込まれていました。日本という国のあり方はさておき、大事な人を守るために「命」をなげうった一人ひとりの気持ちの強さは尊敬できるのではないかと私も思います。

今の日本では戦争の時と違い、いろいろな立場の人の意見を聞くことができます。戦争についての考え方はとても難しいものですが、みなさんには知識を蓄え、経験を積み、平和について自分の考えをもってほしいです。修学旅行の3日目をその第一歩にしていきましょう。